

「個人収支状況調査」における家計簿の廃止について

1. 個人収支状況調査について

今回の全国消費実態調査では、世帯の中での個計化が進んでいる状況に鑑み、従来と同じく、家計調査の調査世帯を対象に「個人収支状況調査」（前回調査の名称は「個人収支簿による調査」）を実施する予定。

同調査は、18歳以上の世帯員全員に「個人収支簿」を配布し、世帯員ごとに個人の自由裁量による収支（いわゆる「こづかい」の収支）を調査することにより、家計簿調査では捉えきれない個計化の状況を把握し、消費構造の詳細な把握に資することを目的としており、消費者物価指数（CPI）のウェイト作成などに活用されている。

2. 家計簿の廃止について

従前の調査では、調査世帯に対し、「個人収支簿」に加え、「家計簿」を配布し、個人収支簿と家計簿を照合することで、家計簿で捉えていない世帯員の支出を捉え、これにより、世帯員ごとの収支実態のほか、収支項目分類における「こづかい（使途不明）」の内訳を推計することとしていた。

調査世帯では、世帯員ごとの収支把握に加えて、家計簿記入を要することから、調査の負担は大きい一方で、収支項目分類の「こづかい（使途不明）」の内訳を含めた家計の収支構造は、「こづかい（使途不明）」の金額が小さく、かつ、個人収支の構造と家計簿記入の有無による収支構造に大きな違いがないことから、家計簿記入により求めた内訳の按分比率で算出した場合と個人収支の内訳を按分比率に用いて算出した場合でほとんど差が見られない。

このため、収支項目分類の「こづかい（使途不明）」の内訳を含めた家計の収支構造の推計は、個人収支の把握で足りるものと考えられ、記入者負担との兼ね合いも考慮し、個人収支状況調査における「家計簿」については、廃止することとしたい。

表 「使途不明」の按分の試算(2014年調査)

	個人収支簿による調査			全国消費実態調査(二人以上の世帯)			
	金額(円)			消費支出に占める割合(%)			
	平均	家計簿 記入あり	家計簿 記入なし	使途不明 「平均」 で按分	使途不明を 「家計簿 記入なし」 で按分	使途不明 「平均」 で按分	使途不明を 「家計簿 記入なし」 で按分
消費支出	73,421	46,392	27,029	292,882	292,882	100.0	100.0
食料	21,068	12,147	8,922	75,886	79,246	25.9	27.1
菓子類	2,313	1,535	777	6,252	6,589	2.1	2.3
外食	12,088	7,047	5,041	13,460	15,644	4.6	5.3
住居	108	68	40	17,674	17,691	6.0	6.0
光熱・水道	91	33	58	20,967	20,992	7.2	7.2
家具・家事用品	1,648	1,110	538	10,378	10,611	3.5	3.6
被服及び履物	7,656	5,788	1,868	12,447	13,668	4.2	4.7
保健医療	5,004	3,704	1,300	12,994	13,792	4.4	4.7
交通・通信	9,764	4,870	4,894	45,231	46,788	15.4	16.0
教育	43	10	33	13,390	13,397	4.6	4.6
教養娯楽	14,768	9,207	5,561	29,927	32,282	10.2	11.0
ゴルフプレー料金	1,756	1,410	346	826	1,106	0.3	0.4
他の入場・ゲーム代その他	1,320	317	1,003	320	531	0.1	0.2
その他の消費支出	13,272	9,455	3,817	53,988	44,395	18.4	15.2
たばこ	1,927	1,078	849	1,118	1,425	0.4	0.5
こづかい(使途不明)				11,710		4.0	